

5


セックスファンタジー

SEX FANTASY

maco

原作 鏡遊

キャラクター原案 しおこんぶ



FANTASY SEXY

Cover Illustration
maco

Cover Design
Inako Yasushi[ERIDANUS]
DL-RAW.Se

maco

原作 鏡遊

キャラクター原案 しおこんぶ



セックス・ファンタジー

SEX FANTASY

5

C O N T E N T S



第20話

0 0 3

第21話

0 3 5

第22話

0 6 3

第23話

0 9 5

最終話

1 3 1



セックス ファンタジー

SEX FANTASY

第20話



なんだこれ
地図か？

マスデイナー
エルフ部族連合
アティナ

この南方の混乱が
聖騎士どもには
絶好のチャンス
だったのだ

でも今は
混乱して
ないぞ？

そこが困った
ところだ

いいか
貴様にもわかる
ように言ってる

聖騎士どもは
ここに大いに
期待していたのだ

正確には
ここに
いる天姫だ

南方を完全に平定し
北へと進撃すると
誰もが考えておった

まあ…
そうだった
可能性は高いかな

でもいくら天姫でも
グレシアを
攻め滅ぼすほど
ヤンチャじゃ
ないだろ

あからさまに
攻めなくても
いくらでも
手はある

簡単なのは
戦乱からグレシアを
救うという名目で
軍隊を聖都に入れ

巫姫をただの
宗教的権威として
権力も軍勢力も
奪ってしまうことだな

なるほど
簡単そうだ

でも実際に天姫は
南方で大人しく
してるわけだし

聖騎士も動き
ようがないだろ？

聖騎士どもは
天姫に備えて
準備を進めていた

今さら聖都の
占領計画は
止められん



考えすぎじゃないか？

そうかも
しれんな

…だが

千年も人間を
見てきた私でも
予想できん

突拍子もないことを
やらかすのが
人間というものだ



…吸血鬼なのに
けっこう心配性
なんだな

巫姫の本当の敵は
諸国ではなく
ずっと聖騎士だった

大神殿の平和が
千年続いたから
といって

明日それが
終わらないとは
限らん



なんのきっかけも
ないのにそこまでの
事態は起きないん
じゃないか？

私は心配性かも
しれんが貴様は
楽観的過ぎるな

きっかけなら
あるぞ

貴様だ



巫姫が貴様のような
災いの種を呼んだ
理由は知らん

貴様のことは
調べがついている
だからこの事態も
予想できた
はずだが…

さあ…そこは俺も
知りたいくらい
だな

しかし私にとって
重要なのは契約と
巫女の血だ

これ以上貴様に
動き回られては
困るのだ

まあ
話はわかった
けどな…

ほう
話はまとまったな
貴様がこれ以上
動き回らないなら
それでよし

貴様が怯えて
逃げ出すなら
それでよし
…だが

逃げ出すような
タマには見えんな

意外と話が合うな
俺も高望みはしない

むしろ
ここにいたい
くらいだな

魔衣姫と
ハーフエルフ

エルフと騎士と

たくさんの美少女たちと
毎日エロいことをして
暮らせればそれでいい

そこに吸血鬼が
一人加わって
くれたら最高だ

では
シード・ネーキス

下僕になって
我と伽をせよ

は？



マントの隙間から
見えるおいしそうな
太もも

シャーミイの
冷たい美貌

素直なのが
俺のいいところだと
思ってる

私に見とれる
男は過去にも
大勢いたが

吸血鬼と知って
そんなもの欲し
そうな目をする
男は初めてだ

貴様のは性欲に
負けてるだけだ
ろうが

だが…
そうだな

長生きの
最大の敵を
知っているか？

なんだ
それ？

退屈だ

エルフどもは
植物のように
感情を持たな
くなるが

吸血鬼は違う
長い生に飽きて
しまうのだ

俺が知っている
エルフは発情した
猫みたいに
騒がしいけどな

……

これだけ長く生きた
身でも賭けの緊迫感
たまらない快感だ

貴様が勝てば
私を好きにせよ
ただし負ければ

退屈をまぎらすには
血もワインもいいが
これも悪くない

このコインで
賭けをしよう



私が好きに
させてもらおう

くそ
そんな美味い
話はないのか
伽をしろとか
期待させといて

ええー

男の純情を踏み
にじるなんて！

吸血鬼ってヤツは
残酷だな！

……



よし！ 受けた！
裏か表かで
いいんだな！

貴様
性欲が恐怖を
超えすぎだ！



ただでさえ
巫姫や赤毛の子を
抱けなくて性欲が
高まってる今

これで
愛を伝えようと
思わないなら俺は
自分を許せない

三人の魔衣姫だけで
なくその側仕えの者
たちまでものにした
とは聞いてたが

率直すぎる
女好きだな

そっちが
先でいいぞ

…裏！

……表だ

ちつくしゅらーっ！

エロい太もも！
マントの上から
でもわかる
たわわな
おっぱい！

なにより吸血鬼の
中はどんな味なのか
確かめたい！

確かめた
かったのにっ！

いちいち
口に出すな！

真眼がまともに
発動していればっ

当てることも
できたのかも
しれないのに！

ふん まあいい
賭けは私の
勝ちだ

好きなことを
させてもらう
とするか

まさか…
今さら殺される
なんてことは…
ないとはいえないな

なぜか割と怒らせて
しまったみたいだし

くくく
では始めるぞ

下僕の分際で
いつまで椅子に
座っている

「おお」？

ふん

こんなもので
南方の魔衣姫どもは
屈服させられたのか

魔神将の力を
継ぐ者たちとは
思えん情けなさよ

!?

おおい…
何を…?

くくく
変態め

踏まれて
硬くなってる
ではないか

いや…
その脚の刺激と
美味そうな太ももに
興奮してるだけというか

主の脚に
興奮するとは
不敬な下僕だ

くくく
こんなのが
いいのか？

むう
まだ大きく
なるとは

絶妙な加減で
モノをいじって
くるっ

おっ
うおお…

本当に欲望に
忠実だな
これはどうだ？

それに見上げる
シャーマイの
太ももがっ

男とはこんなものか
どいつも私を恐れて
逃げ回るばかり
だったからな

くくく
久しぶりの男を
もつと味わって
みるか

えええ…

ちよ
ちよつと待て

俺が賭けに
負けたんだから
伽はなしなんじゃ？

すたっ

おおビクビク
脈打ってある…
くくく

こんなものが
気持ちいいのか
むっこら暴れるな

チビチビ
チビチビ

熱い…
みつともなく
興奮しおって

ズリッ

ズンズン

うっうっ…
ダメだ
シャーミィ…

もうっ

ああ「…」

くくく…
こんなに出しおって
あさましい男だ

ヒッパッ…

うつ
まだ出てる…
こんなたっぷり
出るとは…

今夜だけで
御子どもを
何人も犯して
おいて…

んっ
んむむ…

ふん 変な味だ…
男の血より不味い…

こんなものを
私の中に
出したいのか？

はあ、
はあ

あああ…

そういえば
さっきは許しもなく
唇を奪ってくれたな

ヒッパッ

ニヤリ





ぐっぐぐ
...これはっ

ぐっぐ

んっんっ

ああっ...!

おい...
まさかシャーミィ
初めてなのか?



私たち吸血鬼は
淫楽に耽ることを
躊躇わん

んっ

長い生には
一つでも多くの
愉悦が必要なのだ

くっんっ
もっと私を
楽しませろ...!

んっ
んっ



くくく
人間風情が
ふざけたことを
ぬかすな

んっ

んっ





おほっ

おほっ

もっぴ...
私に率仕じろっ

このくらいでは
私はまだ気持ち
よくはなれな...

おっぱい!!

おっぱい!!

んっああっ
もっぴと強く...
もっぴと強く揉めっ

んっあっ

おっぱい!!
乳首ももっぴ
強く...んっ

おっぱい!!

んつはあつ

んっ
夢中になって
乳房を弄び
おつて…

この性欲の
権化め

三


太いのがつ

奥ま……でっ

ぽよんぽよんで
ふわふわすぎる

し
は
は

025



三

117

117

もつ　もう
そんな動くな

はうっ 太いのが
私の中を
ぐちゃぐちゃに
かき回してっ

そんなに奥まで
入れたら……あつ


あうん
うん

くっ 俺ももう…
ヤバいっ

3



…うっ ああっ
出されてるっ



私の中に
人間ごときの
子種をどくどく
出されて…

んうっ…んっ

カ

本!

あゝあゝ

ああ…
すくえぬ…
まだ
止まらない

…
つ
!?

支那の支那

おつおい
ま 不味いんじや
な かつたのか？

ま不味いに
決まってるだろう
男の血など！

だがこんなに
高まつてしまったら
吸わずには
いられない！

こんなこと
千年生きてて
初めてだ！

……っ！

意識が…
視界が白く…

ね姉さま

…あああああっ！

なんだ…
どこからか
女の子の声が
聞こえてくる

あれは…

シャーミイが誰かの
背後から首筋に
噛みついてる？

はっはあっ

これ
以上はっ！

うおっ
痛っ…

…なんか
変なものが
見えたぞ

シャミーイが
赤い髪の子の血を
吸っているところが

吸血はただ血を
吸うだけではない

私の牙と貴様の血が
溶け合い魂までもが
混ざり合うのだ

……

シャミーイの記憶を
覗いちやったって
ことかな

しかしさっきの
赤毛の子はまさか…

そんなこと
より…

ふん
不味い血だった
口直しをさせよ

口直しって…

おおっ



…ふん
馬鹿を言え

んっ
んむっ

…私はっ

吸血鬼
だぞっ

知らないっ
のかっ

吸血鬼の
再生能力をっ

すまの

面倒な
ことにっ

私の場合は
すべてをっ

回復して
しまうのだっ

30
はっ

はっ

…え？

ということとは
何度やっても
処女ってこと？

はっ
はっ

なんで
うれしそう
なんだ

こんなものは
ただの膜だろうが

痛がらせるのは
趣味じゃないけど

処女は好きだ！
処女なら
何度でも頂きたい

…だんだん
貴様にも
慣れてきたぞ

はあ

貴様も
名も無き英雄の
血を継ぐ者なら
一回や二回では
終わらんのだろう？

さあ
さあ

おっ

ふふ

もちろん二回目も
二十回目もやる！
どうせ戻れないんなら
やらなきゃ損だ！

無駄に
前向きだな

んんっ
ああっ！

あつ…
こら調子に
乗るな！

ま待て
いきなりではっ！

あつーっら…っ
そんな強引にっ

ままだ
私のそこも敏感に
なつたままなの…っ

ズメッ

ズメッ
ズメッ
ズメッ





欲望の底が
より深いのは...

ニヤニヤ

どちらかな？

あー
また我慢
できない！

頂きます！

我儘したこと
あるのが
貴様！

んっ

んうっ

はっあんっ

あっ...本当に
底なしだな...っ

あっんん！

んんんん

んっ
んむむ ご主人様

とりあえず
キスするか

ああ
イリヤも
交ざるか？

んっ
んちゅっ

んんっ

ご主人様
もう少しイリヤが
いることに
驚いてほしい

わかつてる
急に出てきたから
驚いてるけど

それ以上に
シャーミィと
やりたくてつ

おおい
なんだ

あつーちうつ
人が見てる
のに何を…

あふ

んっ んんっ
余計に
激しくっ！

女界雜誌



うおっ
まだ出てる...

シャーミイの
ココ
最高だ

みつ
見られてる
のに...

出されてる!

んっ!

溢れて
くるっ!

ヒッ

ヒッ



何度見ても
エロい...

散々突きまくった
中はまた処女膜が
再生してるんだらう

さっそく処女を
もらうか!



貴様まだ
続ける気か!

私は人に見られ
ながら情事を行う
趣味はないぞ!

割とそれどころ
じゃない
ご主人様



アリーシャ姫
ご乱心

ご乱心!?



ご主人様が消えて
三日も経ってる
これで動揺しない
ほうが嘘

三日?
あれそんなに
経ってるのか?

一回一回を
じっくり楽しんだ
とはいえ

三日でたった
十四発かもつと
やっておかないと



ご主人様
またいらんこと
考えてるみたい
だけど

戻らないと
本当にまずい

そんなに
心配させて
るのか...

あちよつと
違う

馬鹿なこととして
余計な騒動に
巻き込まれて
るんだろうって

怒って手が
付けられない

.....

逃げちゃ
ダメかな

チヨロ姫といえど
怒りが収まるまで
二日はかかる
だろう

二日経ったら戻って
いつも通り
抱かせてもら
おうかな

.....
どういうこと
になってるんだ？

リンは俺が影に
消えたの見てた
んじゃないのか？

うおっ
それは.....

もしかして
グレシアと問題に
なってるのか？

ご主人様が
何人かの御子の
処女をもらった
こともバレてる

御子たちは
巫姫には
黙ってるみたい

その御子たちは
「約束の離宮」に
聖教の神殿を
作りたいとか
言い出してる

へえ…
ラナたちは
離宮に来る
つもりなのか

いっ

くくく
馬鹿ばかりだな
そのハーフエルフも
話に聞いたことがあるぞ

巫姫が
間者として放った
一人であろう

…あれ
この裸マント
イリヤのことも
知ってるの？

誰が
裸マントじゃ！

ハーフエルフを
間者にするなど
酔狂にもほどが
あるからな

話に
聞いただけだ

間者
よくここまで
来られたな

ハーフとはいえ
エルフはエルフか

一応密偵だから
どこにでも
侵入できる

リンにも少し
協力してもらって

地下に入りやす
そうな所を探して
魔法で掘ってきた

そんなマネが
できるのかただの
ハーフエルフでは
ないようだな...

そういえばイリヤは
魔衣に選ばれて
いるんだっけ

そういうわけ
だから
そろそろ戻って

その吸血鬼も
持って帰って
いいから

人を土産
みたいに
言うな!

私は地上には出ん!
それに今は
昼間だろう

…シャミーって
やつぱり
日の光を浴びると
灰になるのか?



愚か者
日の光で
灰になるのは
低級どもだけだ

真祖^{しんそ}は限りなく
不死に近い

日の光はヘドが
出るほど嫌い
というだけだ



…あんまり
吸血鬼って
怖くない

こらいリヤ
余計なこと
言わない

間の抜けた
美人ってところが
可愛いんだから



だがネーキスよ
貴様を地上に
帰すわけには
いかん

まだ巫姫^{サイキス}への
劣情を忘れて
ないよう
だからな

劣情？ そんなの
ご主人様から
なくなるわけない

ネーキス
肌を重ねた
好で警告して
やるが

このメイドは
忠誠心の
かけらもないぞ

俺は別に
忠誠心とか
いらないから…

まあご主人様を
閉じ込めておくのは
悪い考えじゃない
けど

急いだほうが
いいかも

ん？
お姫様の怒りは
そんなにか？

あのお姫様は
チョロいから
いいけどちょっと
別のことも

別のこと？

上はなんだか
騒がしかった

危険な空気が
とても
ピリピリ

と
クゥ

…ちよつと待て
ハーフエルフまさか

騎士団か！

わからないけど
アリーシャ姫は
こうも言ってた

自分たちが来た
ことで聖騎士団を
焦らせたかもって



…ちっ

聖騎士どもは巫姫が
三人の魔衣姫と
手を組むとでも
思っておるのか

近いうちに
動きを見せるとは
思っていたが……

まずい……
これはまずい



…むっ

ちようど
いい

おい
ファリン
ファリン
聞こえるか

…何を
してるんだ？
シャーミイ



吸血は魂の
混ざり合いと
言ったらう？

血を吸った者とは
血を通して心を通じ
合わせられるのだ

え？
じゃあ俺とも
できるのか？

ふん
一度や二度
吸っただけでは
ダメだ

……えー
あれだけいろいろ
吸ってもらったり
したのに

やかまし
いぞ貴様！

ああ！
そんな話を
している
場合ではない

おいファリン！
ファリン！

聞こえんか
それとも返事が
できん状況なのか

くっ
地上へ行く
しかないなっ

待て待て
太陽の光は
ヘッドが出るほど
嫌いなんだろう？

そんなこと
気にしてられるか！
ファリンの側に
いてやらねば！

余計まずいだろ！
灰にならなくても
充分危険じゃないか！

ええい
かまうか！

たとえ消し炭に
なったとしても
ファリンを
放っておけん！

いやいや
一度落ち着け

消し炭になったら
助けられないだろ

ずいぶん焦ってるな
守護する代償として
巫姫の血をもらってる
とか言ってたけど

…本当に
それだけ
なのか？

…ん？

シャーマイ
ファリンって
いうのは…

名前も知らずに
夜這いをかけようと
しておったのか

ファリン・メデイウム
それが当代の巫姫の名だ

ファリン…

なんだろう
何かが頭に
引っかかっている

ファリン…
ファリン

引つかかってはいても
御子を抱きまくったり
吸血鬼の身体に夢中で
結局忘れてた

ファリン…

というか今も
シャーマイと
イリヤと
やりたくて
考えが進まない

ようやく
ボクの名前を
呼んでくれたね

もー
遅いんじゃないかな

…!?

悪いけど
ハーフェルフさんは
シャーマイ姉さまと
一緒にいてね

ボクが連れて
行けるの
一人だけだから

おおい
お前
何を…？

ファリン
なぜここに!?
地下は不浄であるから
来てはならんとっ

我こそが
九十九代目の
巫姫

ファリン・
メディウム

視界がっ
歪んで…っ

行くよ
シード・ネーキス

え?
ファリンで

この赤毛の子が
巫姫なのか!?

っ!?



いたぞ!

第二隊は
右から回り
込め!

いいか
絶対傷つけるな!
丁重にお連れしろ!



本殿はえらく
にぎやかになったな
ついでに丁重の
意味も変わった
のか?

嫌味を言ってる
場合じゃないかな

三日ほど
地下にいた間に
ずいぶん地上は
変わったらしい



捕まったら
ボクはともかく
あなたは拷問された
拳句

首が
ポンだよ

そんな可愛い
擬音で命を
終わらせたく
ないな

というかキミが
巫姫なのは
わかったけど

下々の者は
巫姫の顔を
知らないん
だろ？

聖騎士団に情報が
漏れてたのかな
この赤毛は目立つし

…ま
そりやそうか

本殿に踏み込んだ
聖騎士が百人いるのか
千人いるのかも
わからない

唯一の救いは
本殿が恐ろしく
入り組んだ構造に
なっている

ファリンはその
構造を熟知して
いるということ

さつきから
見つかったのは
そのたび逃げ
おおせている

いくよ

となると状況は
本当に切羽詰ま
ってるなあ



けどなんで俺
思いつきり
巻き込まれて
るんだろうな？

…あなたはボクに
会いたかったんじや
ないの？

だから会いに来て
あげたのに
ひどい言い草だな

会いに来たって
祈りの間で会ってから
三日も経ってるじや
ないか

ボクも暇じゃないんで
アリーシャ姫とも
いろいろと
話すこともあったし

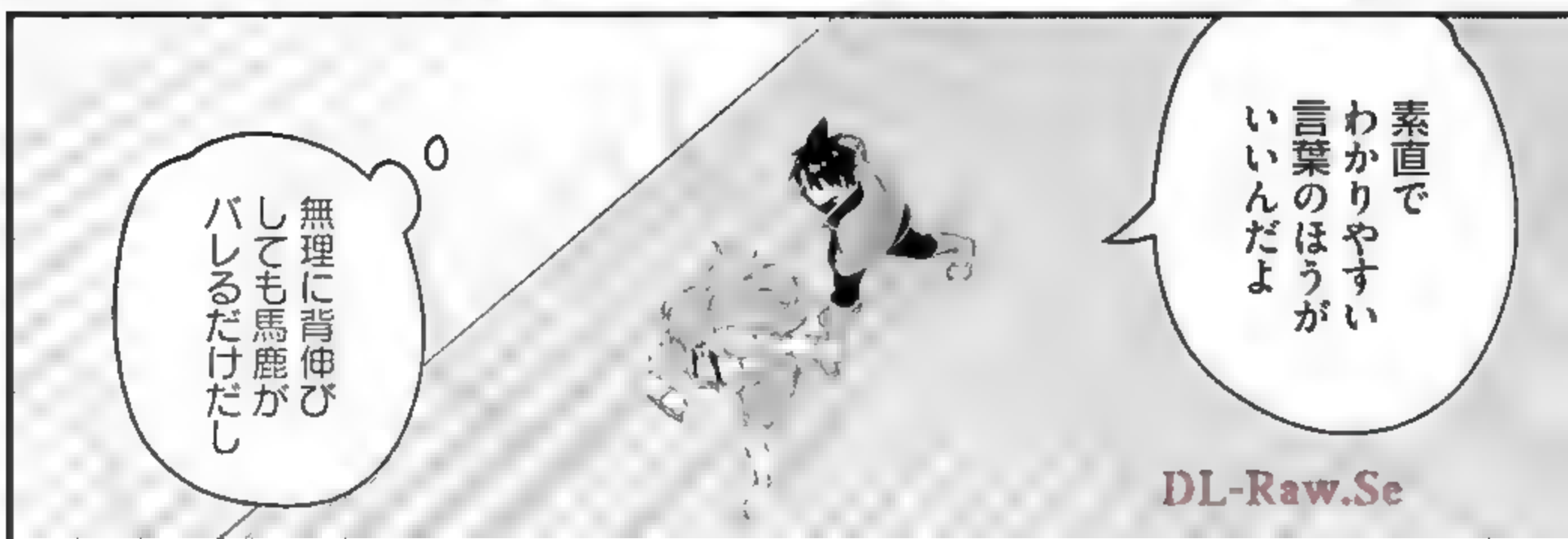
あのお姫様
おっばい
すごかった



あーすごいよな
もうぶるんぶるんで
たゆんたゆんって
感じて！

しかも乳首も
めっちゃ綺麗！

…ものすごく
頭の悪そうな
台詞だね



素直で
わかりやすい
言葉のほうが
いいんだよ

無理に背伸び
しても馬鹿が
バせるだけだし

そういうわけだから
シャーミィ姉さまに
あなたのことを
お任せしといたの

不気味な地下に
引きずり込ませる
ことを任せるって
いうのかな

というかさつきも
姉さまって
なんだ？

ボクは歴代の
巫姫サイクスの中でも
特に後ろ盾が弱い

というより
ぜんぜん
ないんだよ

大本殿は王宮みたいな
ものだから
後ろ盾のない人間は
お飾りにしかなれない

そんなボクを憐れあはれんで
シャーミィ姉さまが
ボクの面倒を
見てくれたの

ずいぶん親切な
ことだなあ
あの吸血鬼

姉さまとは
血を通じて
話ができるように
なったんだよね

ああ
そういうば

ファリンと
会ったときも
床に落ちた血に
話しかけてたっけ

困ったときは
姉さまに相談すれば
たいていのことは
なんとかなったよ

最初は哀れみ—
ううん 気まぐれ
だったのかもしれない

でもボクも姉さまも
一人ぼっちだったから
それで姉妹の絆が
生まれたんじゃないかな

そりや
地下暮らしといっても
千年も神殿にいれば
いろいろ経験してる
だろうし



……

ただシャーマイが
一方的に守っていた
だけじゃないのかもな

姉さまが
あなたを地下に
引っ張り込んだのも
ボクを守るため

いつもは脅して
すぐ叩き出すけど
あなたのことを気に
入ったのかな……



まあ多少は
気に入られ
たかな

ああそうか
もしかして
あの吸血鬼

俺が巫姫サマに向けた
性欲を自分の身体からだで
受け止めたのか？



ただ今は
姉さまのことより
この状況を気に
してほしいかな

俺が気にしても
しょうがないからなあ
要はお家騒動だろ？

グレンシアは
政治を司る
巫姫と

主戦力の聖騎士団
とで権力が
分かれている

！

聖騎士団が
何かやらかしても
おかしくない

俺には理解不能だけど
人間てやつは
権力を欲しが
るものらしいからな

さっ

シード・ネーキスは
度を越した女好き
だって聞いてるよ

権力があれば
女の子も好きだけ
手に入れられるんじや
ないかな？

女の子が
嫌がらなきゃ
俺はなんでも
いいよ

でも権力なんて
手に入ったら
女の子と遊ぶ時間を
政治とか軍事とかに
取られちゃうだろ



…清々しいほどの
女好きだよ

この女好きのせいで
南方はわけの
わからない状況に

きやう

こと!

バタ



おいおい
転んで捕まったら
馬鹿馬鹿しいぞ

最初に
会ったときも
転んでたな

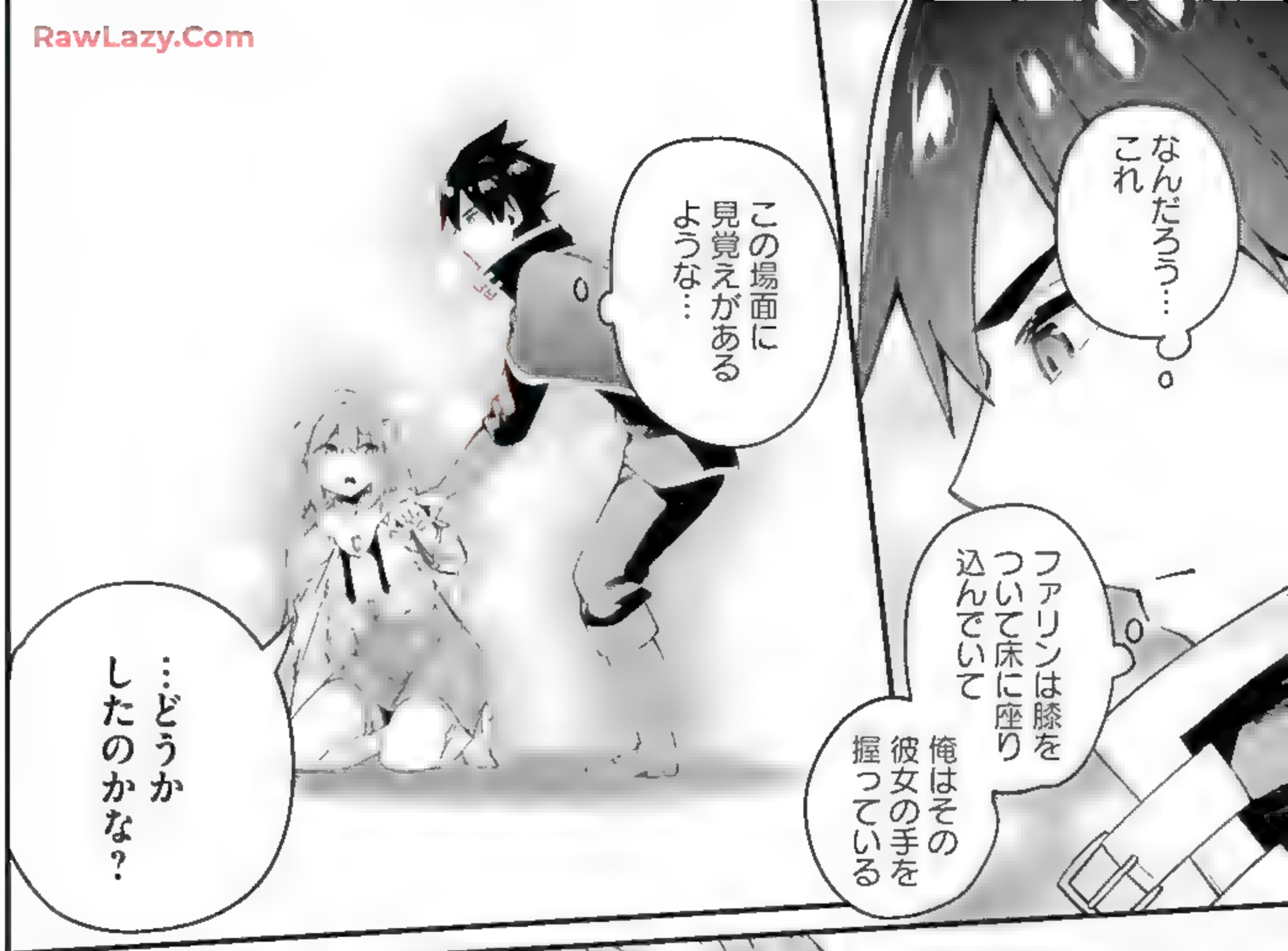
運動は苦手かな
たぶん戦ったら
天姫にもアリーシャ姫にも
一瞬でやられるね



魔衣姫^{まいけい}だっていつても
グレシア聖教の
親玉だもんな

そうそう
戦う機会なんて
あるわけないし

でも聖騎士に
捕まったら



セックス・ ファンタジー

第22話



ようやくお会い
できましたな
巫姫殿下！

ん？



おっ
また出たな
髭のおっさん

黙れ下郎！
アリーシャ殿下の
書記官だか
なんだか知らんが
猊下から離れろ

できれば
アリーシャ殿下にも
もう一度拝謁を
願いたかったのだがな

いっしょ



……
聖騎士団団長
オーギユスト殿

我が国がお招きした
他国の王女殿下に
無礼を働くなど

正気の沙汰では
ございません

ギロ



その程度のことは
心得ておりますよ

アテナはまだしも
マスディニアや
小うるさいエルフどもと
対立するのは
面倒ですからな

この口ぶりからすると
リーシャたちは無事らしい
まあリーシャは
魔衣姫だしな



あなたが正気を
保っているなら
なによりです

ですが
この騒ぎはなんですか？
聖騎士団の昇殿が
禁じられていることは
お忘れですか？

剣をもって
私の前に立つとは
この身が誰なのかも
お忘れですか？



はは

あなたは市井の
出でしょう
そのような堅苦しい
言葉遣いは不要ですぞ

それにあなたは
魔衣に選ばれ
正式に即位したのでから
忠義は忘れてはおりません



魔道の…男？

聞くところによると
そこにいる
アティナの書記官は
巫姫^{マスデイニア}下自ら
お呼びになったとか

俺？

我ら聖騎士団も
南方地域で独自の
調査を行っております

我が国にも
混乱を招く
奸物^{カクモノ}であることは
确实

そんな男を呼び寄せ
さらにご寢所にも
引き入れたとの
話もございます

…ちよつとまって
あなたたち本当に
調べたのかな？
シード・ネーキスは
…方法はともかく

アティナとマスデイニア
エルフ部族連合の
同盟締結に功績が
あったんじゃないかな

恐れながら猊下
マスデイニアは
もちろんのこと

アティナごとき
小国でも
怠らずに探りを
入れてますゆえ

確かな
情報です

…ボクの寝所にも
密偵を潜り込ま
せてるのかな？

お答えする
必要はないかと

清廉を旨とする
聖騎士ならば
まだしも

他国の書記官などの
手を取り お側に置いて
いる状況こそが
証拠でありましょう

巫姫^{サレイス}現下は
この地上において
もつとも穢れ無き
存在であるべき御方

残念ですが
疑いがかかることすら
祓^{ハラヘ}いようのない罪科^{ズイカ}

繰り返しますが
害するつもりは
毛ほども
ございませぬ

…このザコが

は？ 現下
今なんと？

ザコが
と言ったんだよ
ひいおやじ
髭親父！

聖騎士といっても
聖都にいる戦力は
せいぜい三千程度

ごときといった
アティナと大差ない

オーギュスト
あなたが周辺の国々に
使者を送っていたこと
ぐらい調べはついてる！

その連中が
国境周辺で軍を
動かしていることも！

：御身の生まれが
卑しいことは
知っておりますが

情けない限り
巫姫殿下とも
あろう方が



ボクを退位させたら
適当な後継者を
選んで傀儡にする
ってところかな！

さすが清廉な
聖騎士様たち
だね

恥を知ると
いいんじゃないかな！

黙れ小娘！

お前こそ
魔衣があるからと
縁に姿を見せず
奥に籠って黒幕気取りか？！

グレシアを守り
身体を張っているのは
我ら騎士

本殿で
ぬくぬくしている
飾り物の女が
気取るな！

…あの人なら
そうは言わない！

飾り物だからこそ
命を懸けて
守ってくれる！

あ命を懸けるかは
怪しいけど…

あの人？
シャーミイか？

でもあいつなら
命くらい懸けよう
だよな

何を言ってる
小娘

しつこく繰り返すが
巫姫に傷一つつける
意思はない

大人しく
我らに投降し
次の巫姫に
譲位されよ

お笑いだよ
オーギュスト
ボクに傷をつけるのが
怖いだけじゃ
ないかな

ボクを
傷つけることは
神々に刃を
向けるのと
同じだよ

そこが厄介な
ところ

ですが幸い
御身の顔形を
知る者は
ごくわずか

その者たちに
納得してもらえれば
ほかにも手は
ございますぞ

よく喋るな
このおっさん

ふん

要するに
フアリンを殺して
影武者を立てると
言ってる

あーやだやだ
本当に女の子を
道具としか
見ていない

御子たちだけじゃ
なくて巫姫まで
欲望の踏み台に
されるのか

御身に魔衣が
あるからといっても
三千人の聖騎士が
相手では
どうにもなりますまい

神妙に
していただけるなら
それでよし
この場の暴言も
お忘れしよう

ですが

あもういいや
ちよつと準備が
できたところだよ

虚空転移
ヘイレイター



また
歪んで...

逃がすなっ!

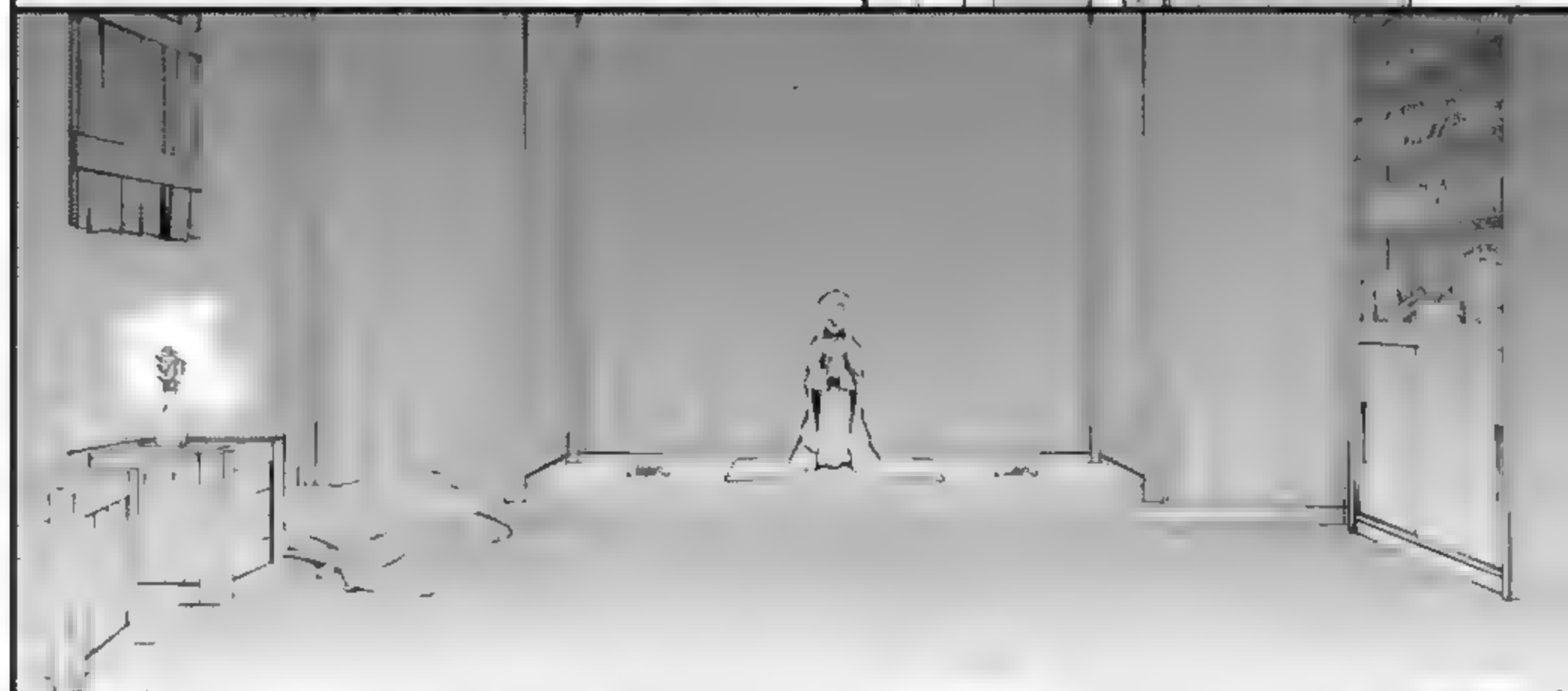
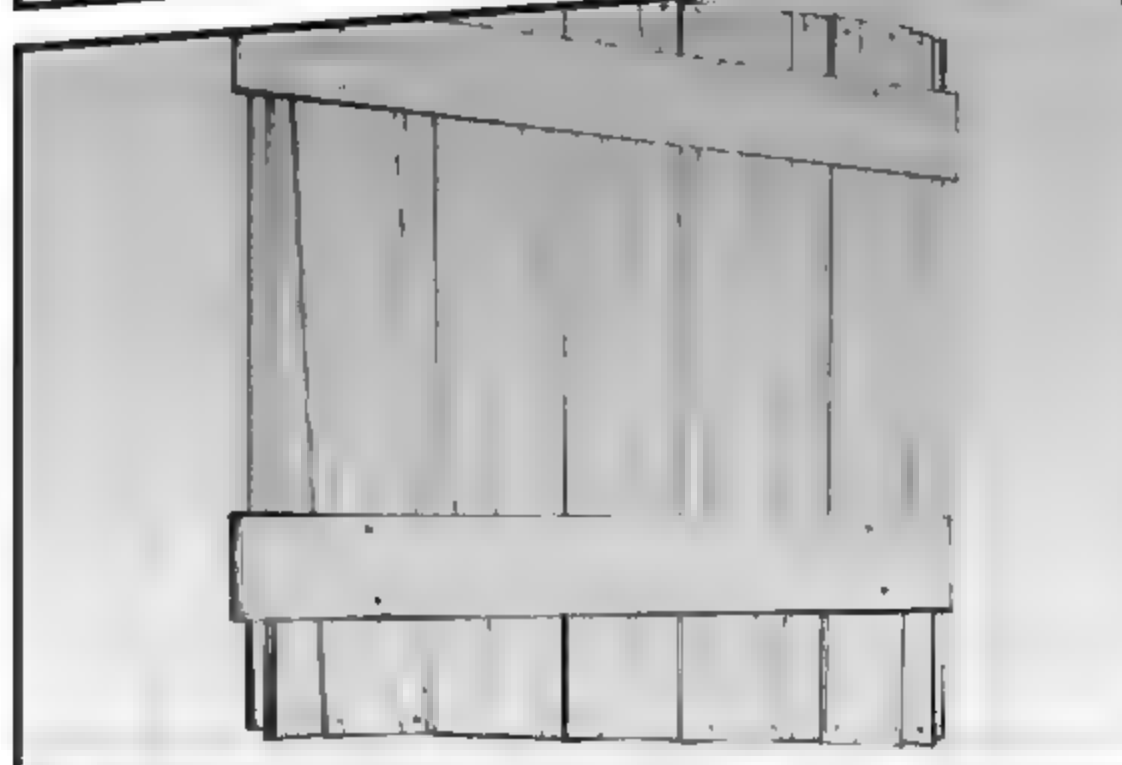
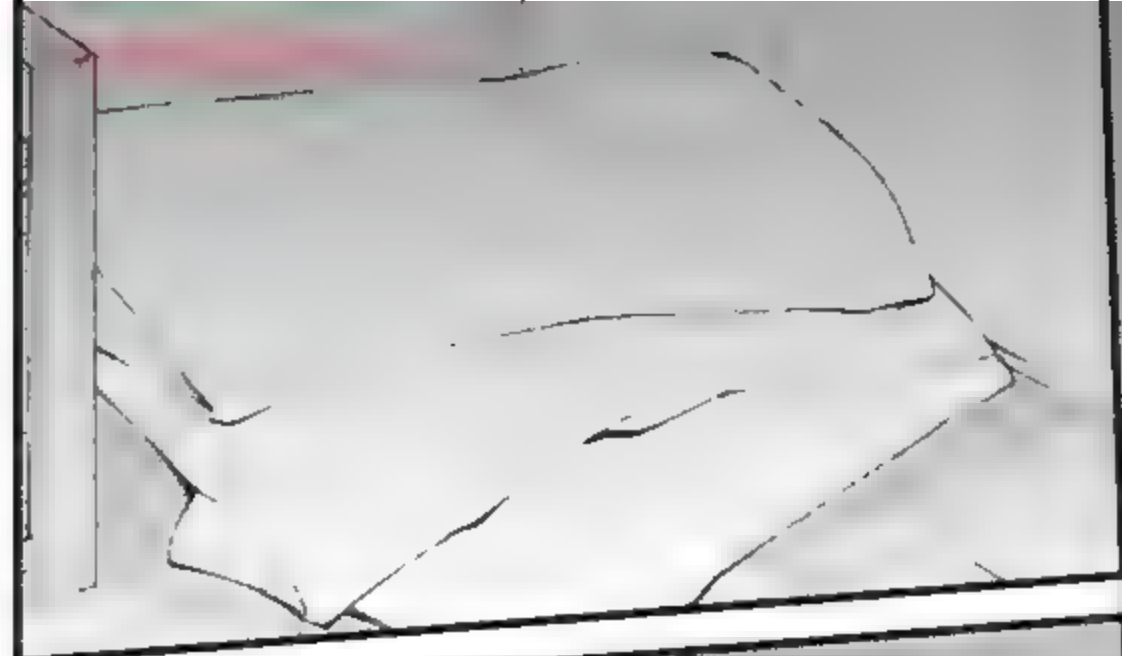
逃げるよ

それが
お前の能力か!

!!

はい
とうちゃーく
着いたよ

...



巫姫…さん？
キミいったい何を
やっているんだ？

ボクが何を
しているかなんて
ことが気になるの？

あなたが
気にするのは
もっと別のこと
じゃないの？



そりやキミに
どうやって愛を
伝えるかが
一番だけど

状況がめまぐるしく
変わりすぎてな

愛

愛ね…大丈夫

ここには
聖騎士も誰も
来られないんじや
ないかな

代々の巫姫^{サレイマス}だけが
場所を教えられる
本殿内の隠し
部屋だよ

隠し部屋？

ボクなら
魔衣の能力で
中に入れるからね

あそれだ
キミの魔衣の力って

瞬間移動
なの？

元々はカラクリ仕掛けで
部屋の扉が現れるように
なってただけど

今はその扉も
潰しちゃった



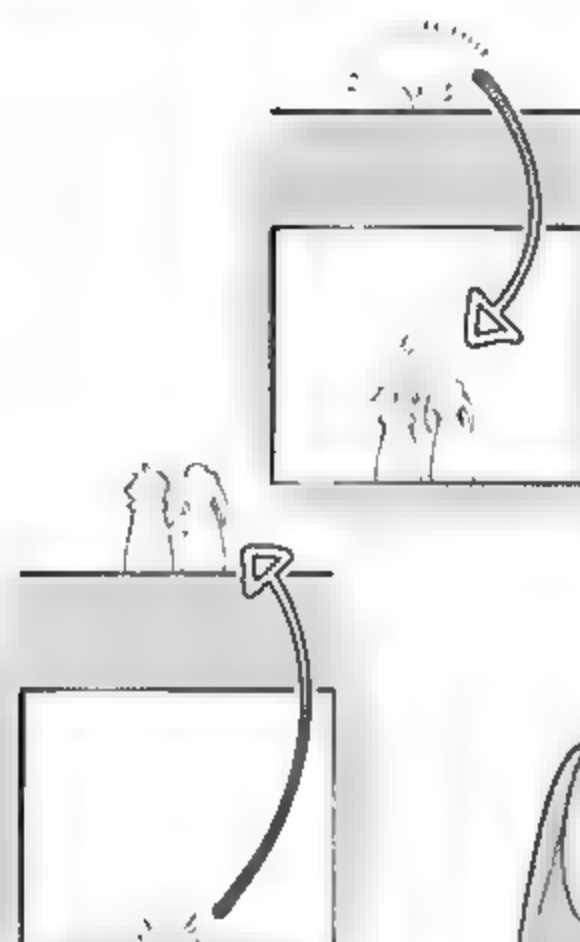
そうだけど
便利なようで不便な
能力なんだよ

望んだ場所に
瞬間移動できるけど
二度目に能力を発動
させると元の場所に
戻っちゃう



それは…
確かにちよつと
不便だな

だからオーギュストが
ペラペラお喋り
してくれて助かった



さっきは本殿の廊下で
聖騎士たちの蜂起を
知って慌てて地下に
移動してあなたを
連れ出したんだけど

地下からは
元の廊下になしか
戻れないんだよね

往復したら
少しの間使えなく
なっちゃうしね



あの会話
時間稼ぎ
だったのか…

…ん？
ちよつと待て
キミの能力も
今の立場も
わかったけど









ふうん怖いね

あなた
そんな声も
出せるんだ

…たまにはな

まあ
そう思っ
てく
れ
て
も
い
い
よ

でシャーミイ
姉さまは？



さつきから
話題が
唐突だなあ

つと美少女相手に
凄むなんて
俺らしくなかった

吸血鬼なんて
抱いたのは初めて
だったけど
あの冷たい身体は
癖になる

…やっぱ
り
そ
う
い
う
感
想
だ
け
か



シャーミイ姉さまは
ボクの面倒を
見てくれてたけど

もうボクも
子供じゃないから
最近あまりかまっ
てく
れ
な
い
ん
だ
よ
ね

ボクは一人じゃ
なかった

巫姫^{サイキス}としては
奥に籠^{こも}ってることに
な^なってたけど
御子のフリをして
本殿で働^{はたら}いてたし

ああそれだ
なんで
またそんなことを？

自分に仕えてくれる
人たちの顔ぐらいいは
知^しっておきたかった
んだよ

それだけのために
わざわざ働^{はたら}いて
たのか？

大事なことだよ
正体を明かせないのは
心苦しかったけどね

でも
シャーマイ姉さまは
一人だった

ずっとあの地下で
ワインを飲んで

たまにボクの
血を飲んで

姉さまは気楽で
いいなんて
言^いってたけど
たぶん嘘^{うそ}

…そう
だろうな

吸血鬼だろうと
寂^{さび}しいものは
寂^{さび}しいんじゃないかな

少なくとも
ボクと一緒に
いるときは
楽しそうだった



巫姫^{マギ}なんて
いつでも大した
ことはできない

でもボクが
見つけた

寂しさを少しでも
まぎらわせて
あげたかった

姉さまが
あなたとの時間を
楽しんでくれたなら
いいんだけど

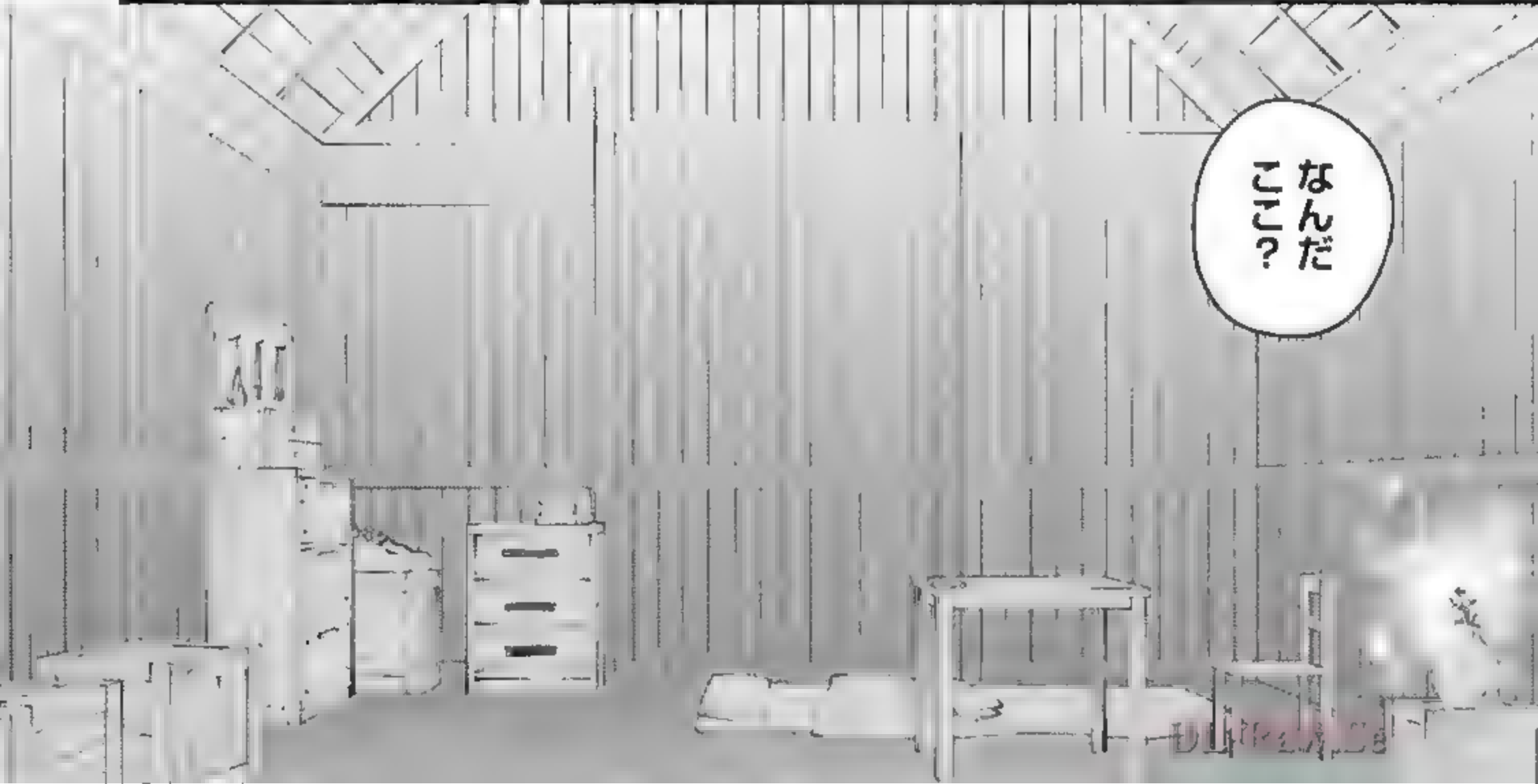


ガチャッ
イリヤ・メイターや
シャミー姉さまを
救うためなんて
大層^{たいそう}なことでもない

ただボクが
そうしたかった
から

…？

なんだ
ここ？







お兄様

…やっと思い
出してくれた

もうこのまま
気づかれないんじや
ないかと
思っちゃったよ

そうだ
俺はその笑顔も
知っている

いや
思い出した

ファリン・メデイウム
俺が赤毛と呼んでいた
女の子

その頃すでに
美少女を漁り

じゃなくて
愛を伝えるために
大陸中をうろちよると
旅していた

あれはもう
十年ほど前の
ことだろうか



外法^{げほう}がまだ
不完全で失敗する
ことも多く

いろんな女の^こに
ちよっかいをかけては
騒動^{さうどう}を起こすことも
多かったつけ

そんな折

メガレイシア大陸の
戦火^{せんか}に見舞われていた
ある国を訪ねた



その国には
魔衣姫^{まゐひめ}どころか
王すら不在で

数人の小領主が
争いを
繰り返していた



別に珍しくもない
状況で

戦火で
親を失った孤児^{こじ}が
溢れかえっていた


可哀想^{かわいそう}だとは
思ったが
俺に救う手段
なんてない

旅人の俺だって
食うだけで
精一杯だった

ただ
あるとき









クズにだって
人並みの感情
くらいはある

その子には立派な
名前があったけど
俺は「赤毛」と呼んだ




情が移ら
ないように

毒の影響がないなら
さっさとその子と
別れようと思ったから



どんなに
いい方を取り繕っても
見捨ててるんだ

そのはず
だったんだが…



おかしい
なんで
こんなことに



森にあった小屋を
獵師から借りて
赤毛を休ませた

薬師にも
見せてやった



案の定
赤毛は毒で
身体を壊し

起き上がることも
できなくなって
しまった



一応赤毛が女の子
だってことには
すぐに気づいた



赤毛が回復し
旅人としての
知識を教え

森や山で
食べ物を得る手段も
実地で学ばせた



お兄様

赤毛はいつしか
俺をそんなふうに
呼ぶようになった



ただ赤毛は小さすぎて
さすがに俺の食指も
動かなかったし

育つのを待って
ペロリなんて
気の長いことも
考えなかった

教えることは
まだまだいくらでも
あった

柄にもなく
善意の区別
なんてことまで
教えたっけ


それから
数か月が過ぎて

本当にお兄様は
碌でもないんじや
ないかな

すっかり懐いた
赤毛が怒りながら
俺の後ろを走っていた


当時
俺はある街で
美女を巡る騒動に
巻き込まれ

追っ手が
かかっていたのだ




おまけに男は
貴族の坊ちゃんで
傭兵を雇ってまで
本当にしつこく
追いかけてきた

森に入って
なんとか追撃を
巻いていたが



男らは数か月かけて
森を調べつくし
俺たちの小屋へと
近づいてきた



やむを得ず俺は
赤毛を連れて
森から脱出

いやだ
お兄様！

ボクは
大丈夫だから！
ついていく！

お兄様が
好きだって言ってた
服の下着だって穿くし

近くの街の神殿で
顔見知りの神官に
赤毛を預けた

美人になるから
置いていかないで！

ッ
ッ
ッ

俺が一人で
街から逃げ
さらに逃避行を
重ねていると

だからこそ
危険があるのに
一緒に行くわけには
いかなかった

ッ
ッ
ッ

悪いな

どんな教育を
してきたんだ？

赤毛に情も移って
しまっていたけれど

男と追撃隊が
盗賊に襲われて
全滅したという
噂を聞いた

その話を聞いても
俺は赤毛を迎えには
いかなかった

赤毛の伝説

赤毛は、かつて、この世界を
支配した、最強の戦士。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の



赤毛は、かつて、この世界を
支配した、最強の戦士。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の

赤毛は、かつて、この世界を
支配した、最強の戦士。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の

赤毛は、かつて、この世界を
支配した、最強の戦士。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の

赤毛は、かつて、この世界を
支配した、最強の戦士。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の

赤毛は、かつて、この世界を
支配した、最強の戦士。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の

赤毛の伝説

赤毛は、かつて、この世界を
支配した、最強の戦士。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の

赤毛は、かつて、この世界を
支配した、最強の戦士。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の

赤毛は、かつて、この世界を
支配した、最強の戦士。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の
名は、戦場の英雄、赤毛。彼の

俺みたいなクズは
どうせ偉な人生を
送れない

懐いてくれる
赤毛は可愛かった
けれど

だからこそ側に
置いておけなかった

そして
そのうち赤毛のことも
忘れてしまった

まさか
魔衣姫に

それも
グレシアの巫姫に
なってたなんて

第23話

ままさか
魔衣姫に

それも
グレシアの
巫姫になってた
なんて

ボクもまさか
ここまで気づいて
くれないとは
思わなかった...

いいや
それは...

でもお前も
初対面ですみたいな
顔してたよな!

気づいて
くれるのを
待ってたんだよ

はー
すっかり
忘れられて
たんだー

チクチク
責めてくるな...
悪かったよ

でも見た目も
立場もここまで
変わってたら
さすがになあ

そりやそうだね
ごめんボクも
ちよつと意地悪
だったかな

神殿に入って
何年か経って魔衣に
選ばれたんだよ

歴代の巫姫が
みんな魔衣姫って
わけじゃないけど

ちょうど先代の
巫姫が引退する
時期だったんで

大神殿から
使者の人が来て
巫姫に即位すること
になったんだよ


だよね……って

人生何が
起きるか
わからないな


でもねボクは
巫姫になんか
なりたくなかった

え？






そんなこと
ただの御子じゃ
できなかった
だろうし




わざわざ
あんなしょぼい
暮らしを...

今は不自由ない
暮らしができる
だろうに



.....
それでもファリンが
戻りたい場所は
あの小屋なのか...

...それに



お兄様と
会う前の
ボクみたいに

孤独で寂しそうな
子を見ちやうと
放っておけなくて

その子を救うために
手を差し伸べることは
できるようになった



お前
知らん間に
策謀家に
なっていないか？

ボク お兄様を
ずっと探してた

噂だけはあちこちで
流れてても肝心の
本人はぜんぜん
見つからなかったよ

お兄様は
フラフラしすぎ
じゃないかな！

すすみません

ただの旅人
だったら普通に
グレシアに連れて
こられたのに

厄介じゃ
ないかな！

やっと見つけたと
思ったら

まさか
一触即発だった
南方地域を平定
しちゃうなんて

すすみません

まるで
出来の悪い兄を
叱る妹だな



もうボクは
十年前とは
違うんだよ

大陸じゃ
もう結婚したって
おかしくない

それは
まあ……

ボクは巫姫とか
聖騎士とか
魔衣姫だって
どうでもいい

あーお兄様が
ほかの魔衣姫たちと
いやらしい関係に
なったことについては

あとでお話が
あるんじゃないかな

あとで……

イリヤ・メイターと
シャミー姉さまに
ついては
まあ特別に許すかな

御子たち
とのことも

ボクに近づくために
やったことだから
水に流す

どうも
どうも



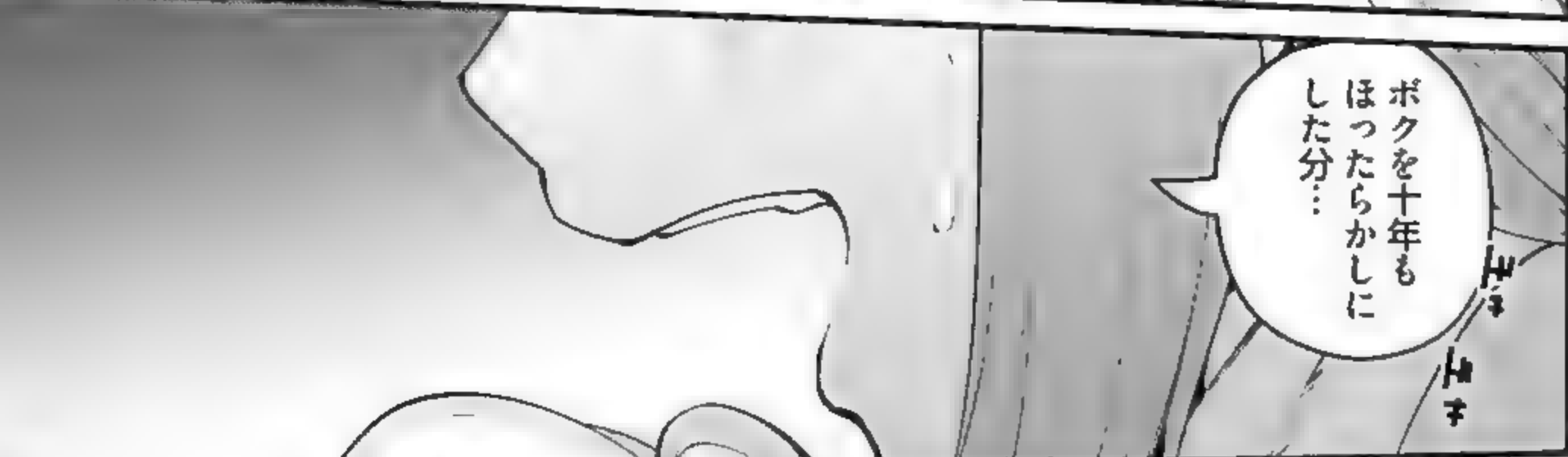
でも
それ以外のこと

特にボクを
ほったらかして
どっか行っちゃった
ことは許さない

後回しにも
しない

たじ

どうしろ
と……

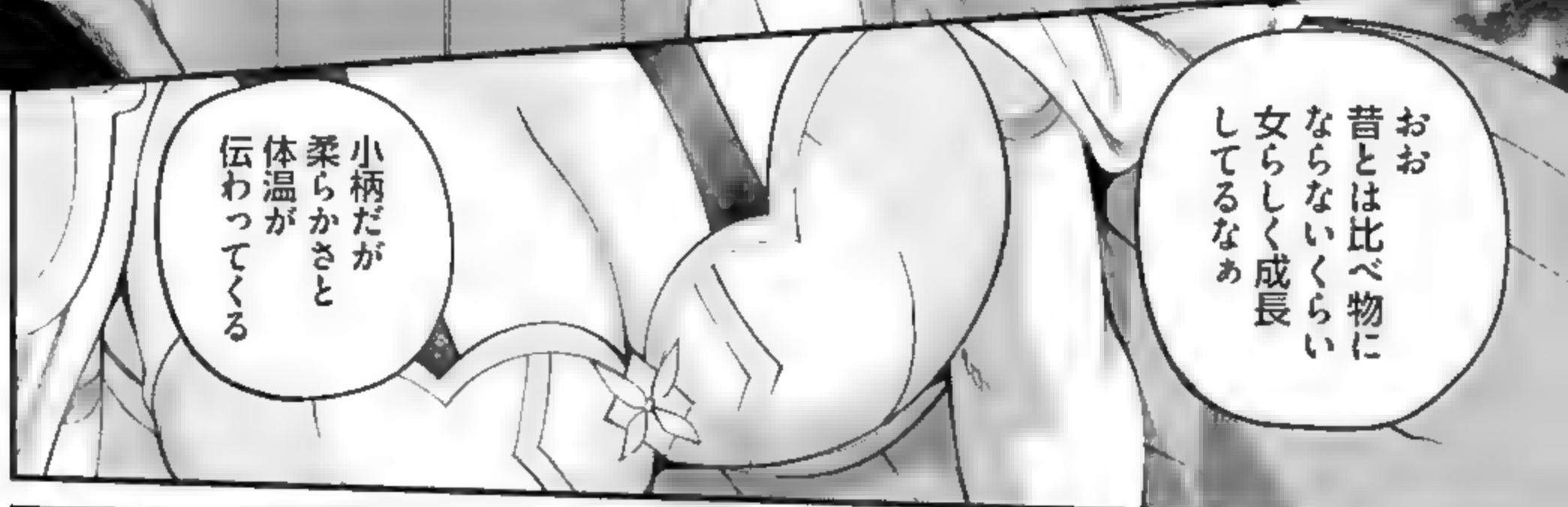


ボクを十年も
ほったらかしに
した分……



お兄様の
大好きな
愛を十年分

ボクにくれると
いいんじゃないかな！



10/13

お兄様……

いきなり
すぎるんじや
ないかな！

俺はだいたい
いきなりだぞ

あ

もう一回

ちよっ…

んむむ……

んんーっ

はあ
おお兄様

トロ……
お兄様のことは
わかってるつもり
だったけどここまで
遠慮がないとは
思ってたかったよ

これでもボク
地上で最も
清らかな
巫姫なんだよ!!

ここにいるのは
巫姫じゃなくて
ファリンだろ?

俺を
お兄様って呼ぶ
この地上で一番
可愛い女の子だ

スゥ……

難易度ゼロ

攻略ルート完了

たぶん十年前の
時点でそうなって
いたんだろう



うっ…
そそいうことを
臆面もなく言うよね…

でもそれで
いいんじゃないかな…
いやでも…

うっ



ちよちよっと
待ってボクは
赤毛なんだよ？

子供の頃を
知ってるからとか
妹みたいなもの
だからとか

普通は
手を出しにくい
ものじゃないのかな!!

え？
別にそんなこと
ないな

わーお

すげえ可愛く
成長してるし
おっぱいは美乳だし

子供のときを
知ってるとか
妹みたいな
もんだとか

そんな理由で
触らないわけ
ないだろ

法衣の上から
触ってるだけでも
形がいいのがわかる

あっ

うおっ

んんっ

…いっいきなり
おっぱいなの!!

お兄様
妹のおっぱいに
遠慮なさすぎ……っ

ああんっ

やん
ダメっ……!



ボクが
十年間

お兄様のために
守ってきた
純潔を

確かめて

まさか
こんなことに
なるとはなあ

赤毛を拾ったときは
本当に下心なんて
皆無だった

十年前は
あまりに
子供すぎた









お兄様…
そそこは…っ

すっ…

じゅ

じゅ

んんっ
身体が
痺れちゃう…

ああっ…
あんっ



もうちよっと
よく確かめないと

おっ
もう濡れて
きてるぞ…

そそんなこと
言わないで…
お兄様の意地悪…！

あっ はあっ

お お兄様…

ポポクっ
そんなに
されたらっ

ももう
ボクが処女だって
わかってるくせにっ

びゅ



あぁ
ソクソクするっ

もちろん
わかってるけど
舌を止められない

ポポクはもう
子供じゃないん
だからね…

そそれを…
証明する
からっ

じゃ

じゃ



お
お兄様の…

ボクも
してあげる…

お兄様に
守ってもらう
だけの子供じゃ
ないんだから…



ははわわ
…こここんなの
む昔見たのと
違うんじゃないかな！

そりや
違うに
決まってるだろ







おおおおおお

おお兄様にやっつこー！

やっつこ
処女をあげら
れたよ…っ！

ブルブル

ブルブル

ブルブル

ブルブル

そんなことで
喜ばなくても…

うれしいのは
こっちのほうだって
いうのに

喜ぶよ
だってボクは十年
待ってたんだから…

ああ…

だからお願い
もつと来て…

ボクが
やっつとお兄様の
ものになれた
ってこと

もつと
感じたい…

あーっ♡

んっ あっ
お兄様

お兄様のっ
ボクの中につ

来てる...あうっ

はうんっ...!

くっ...
ファリンの中
メチャクチャいい...!

も もうボクの
ここは...お兄様の
ものだから...

ううん あの日
森で拾われた
ときから

ずっとお兄様を
受け入れるのを
待ってたんだよ

お
ほ

お
ほ

お
ほ

お
ほ

お
ほ

あああ！
…もうファリンは
俺のモノだ

ちゅっ
ちゅっ
はっはっはっ

はわっ
あっ

ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ
んんん…

お兄様
…お兄様っ

ガッ
ホッ

ハッ
ハッ

あんっ 大きいっ
大きいよっ！

ボクの身体^{からだ}裂かれ
ちやうみだい！

大丈夫か？

ううん
もつと…

もつともつと
メチャクチャ
にして…っ

あまっ
お兄様手を繋いで
くれるのっ
うれしい

あまっ
あまっ

大好き
大好きっ

あまっ
あまっ

ファリン…！

あまっ
あまっ
大きので
もつと
かき回して…！

はあっ
はあっ



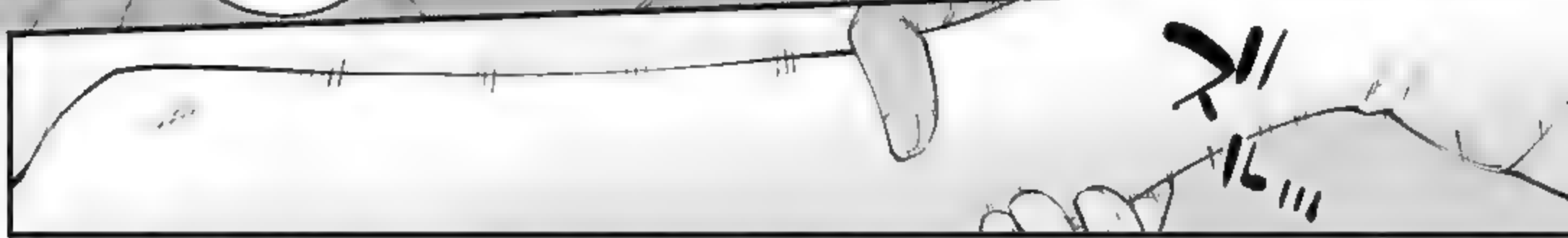
あうっ

お兄様つ
お兄様あ！

ボクっ
ボクもうっ

あああああ……！

104





もうずいぶん
ファリンの中に
入りっぱなしだ
ファリンも
夢中になってるけど
初めての子に
これ以上は…



はうっ
お兄様と
溶け合ってる
みたい…っ！

もっと
お兄様の
ほしいよ…！



うっうん…
お兄様

あーもうちょっと
もうちょっとだけ先に
ああ
でももうっ

ファリン
いくぞ…！

お兄様ので
ボクの奥を
いっぱい
してええっ！



ああもうファリンは
俺だけのものだ…
絶対に離さない

あつあつ
…熱いの
出てる…

ああボクの
中からこぼれて
きてるよ

よかった…ボク
やっとお兄様の
ものになれたよ



シャーミイ
姉さまと…

はちゃんす

はちん

ハーフエルフ!?

はち♡

はちまき

お兄様……
み見られて

世の中には
見られて悦ぶ
子もいてだな

ボクは
違うんだよ！

ちよ
一度やめて……

10/10/10

セックス・ SEX FANTASY ファンタジー



ああ一発目は
これ以上
ないくらい
堪能したのに

もっと味わい
たかった...

甘っ
甘っ



ね姉様に
見られてるのに...

な中に出され
ちやったよお
おお兄様!

イリヤは人と一緒に
性交するのが
好きなんだけど
一緒でもいいか？

ボクの話聞いて！
あと堂々とほかの子と…
とか言っちゃ
ダメなんじゃないかな！

お兄様がそういう人
なのは知ってたけど！

…「約束の離宮」
での酒池肉林は
知ってたし

一緒に暮らしてたころ…
そそのシてるところ
見たことあるんだよね

え知って
たのか？

まあ
知ってたなら
話が早い

イリヤと
シャーミイが
来てくれたんだし
四人でやるか

違うわ！
そんなことのために
来たのではない

ファリンがいいならと
しばらく放っておいたが
いつまでもいつまでも！

あれ
そんなに時間
経ってるのか？





ええい
胸くらいあとで
いくらでも
揉ませてやるから
話を聞け!

あっ

んっ

ぐんぐん



御子の一部が
本殿から脱出し
アリーシャ姫と合流した!

御子たちを保護して
聖都から脱出し
郊外の古い神殿に
立て籠ってある



アリーシャ
たちが!?

緊迫したフリをして
何をしてるのかな!?

モミ
モミ

モミ

いやでも
まずいなそれ
リーシャも：
わかってるん
だろうな

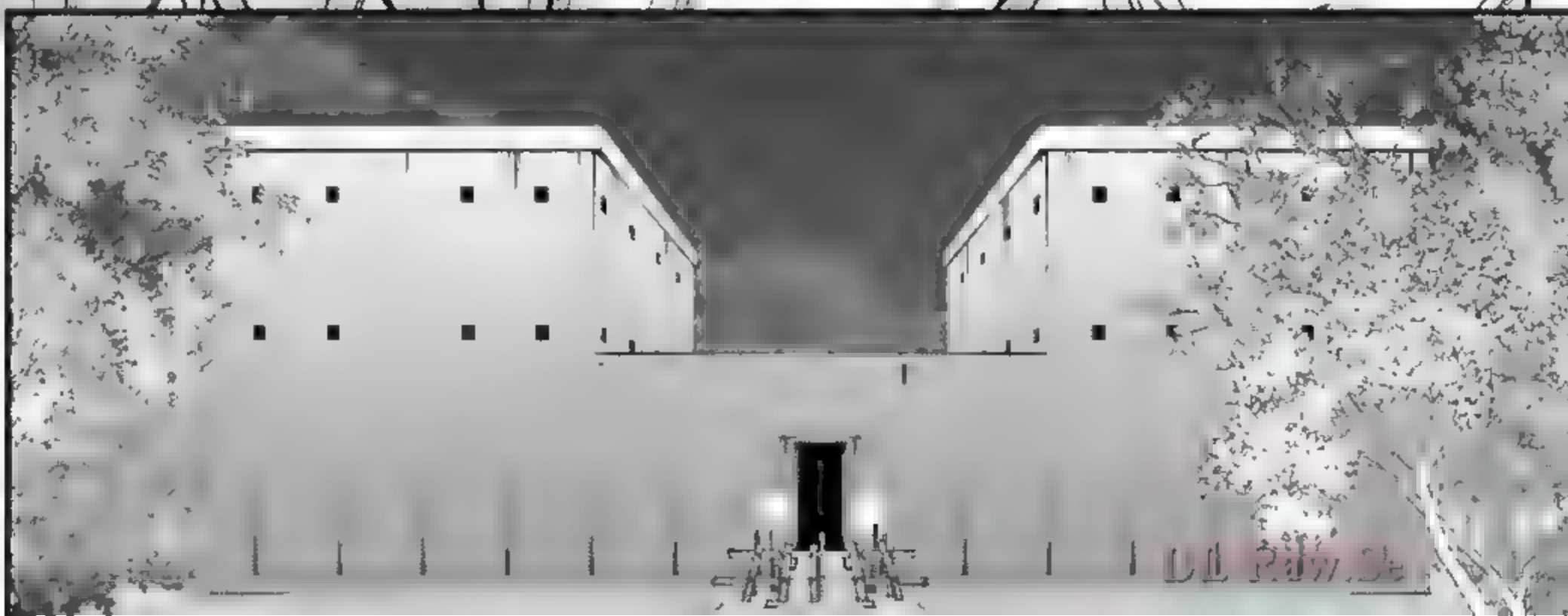
御子を保護したら
聖騎士団に
攻撃する口実を
与えることになるぞ

どうするの
お兄様…？

1824

どうすると言われても
こういう荒事^{あらこと}は
俺の専門じゃない

うんうん—



リーシャが率いてる
手勢はアティナの
近衛騎士

エルフ姫兵
マスデインア姫兵を
合わせて、百名ほど

魔衣姫のリーシャと
姫兵だけなら
持ちこたえることや

上手くいけば
蹴散らす
ことだって
可能なはずだ

ただ…

御子たちを
守らなきゃいけないし
相手はグレシアの
聖騎士だからな

リーシャも
迂闊に手だしは
できないだろうな

リーシャが
立て籠った
古い神殿の様子を
確かめるためだ

俺たちは
シャームイの魔法で
隠し部屋を出て

聖都の外れにある
占びた塔に移った

聖騎士団は
ずいぶんあつちに
手勢を割いてるな

…あれ干や
二千じゃない
だろう

四千はおるな
聖騎士に加え
周辺国から
聖都守護の名目で
送られてきた軍だろう

愚か者どもめ
わざわざ他国の
軍を引き入れて
どうする

どの国も
好意だけで
軍を出した
わけではないぞ

聖騎士はまだしも
よその国の連中は
何をやらかすか
わからないな

そういうことだ
他国の連中には
ただの小国

姫の一人くらい
死んでも
気にせんだろうよ

うーん…
とりあえず

リーシャとも
やりたいから
あいつのところ
に行くか

お兄様！
欲望で動くのを
やめたら
どうかな！？

でも
ご主人様の欲望で
物事がいい方向に
転がったりする

使い捨てに
された密偵が
救われたりとか

……イリヤ・メイター
もしかしてボクを
恨んでるのかな？

ううん 巫姫様が
イリヤを離宮に
送り込んだおかげで
居場所ができた

恨んでない
恨んでない

なんで今
言い淀んだ
のかな！？

俺のメイドと妹が
一騎打ちしてるのは
いいとして

吸血鬼は
気が長くないと
やってられんが……

貴様らは
吸血鬼以上だな

この状況で
よく喧嘩してられる
ファリンこやつらに
毒されるなよ

俺の毒牙には
かけたけどな

おのれが
言うな！

でーっちは
どうするつもり
なんだ貴様



外を偵察しようとしたら
上ってきた聖騎士と
かち合ってしまった

シャミーが即座に
気絶させたが
人逃げてしまった

応援を呼ばれ
今は数百人の
聖騎士たちが
この塔を
取り囲んでいる

うーん
流れるように
とんでもない状況に
なっちゃったな

私の魔法があれば
どうにでもなる

殺すも逃げるも容易い
まあ殺せば聖騎士どもも
引っ込みがつかなく
なるだろうがな

相手が男じゃ
外法は通じないしなあ

通じさせたく
ないけど

逃げるのも
よろしくないだろう

街の者どもまで
遠巻きに
この塔を見ている

巫姫がいることも
バレておると
考えたほうがいい

逃げ出したとなれば
巫姫の権威が
揺らいでしまう

巫姫の権威なんて
ボクは気にしない
けど……

このままだと
ボクや姉さまは
ともかく
お兄様がまずいね

イリヤは
まずくない
とでも？

こんな状況だし
アティナの書記官
一人くらいは
簡単に殺し
ちゃうんじゃないかな

どうもファリンと
イリヤは
仲がよくないな

やっぱり一度
二人と乱交した
ほうがいいか

さて貴様が女に
溺れていた間に
状況は悪化
しておるぞ

アリーシャ姫も
すでに
包囲されておる

かの姫の性格が
聞いた通りなら
包囲を切り破る
ころではないのか？

やりかね
ないなあ

意外と
脱出くらいなら
できるかも
しれない……が





恐怖で頭が緩んだ
ということとは
……ないか

最初から
緩みきって
おるからな

ご主人様は
常に正気で本気だと
イリヤもわかってきた

俺の外法は
どんな女の子
だろうと
虜にする

姫兵だろうと
吸血鬼だろうと
魔衣姫だろうと

どういふこと
なのかな
お兄様？

俺を
呼び寄せたのは
正解だったぞ赤毛

どのみち聖騎士団は
俺たちが来なくても
遅かれ早かれ
蜂起しただろう

？

でもよりによって
俺がいるときに
蜂起しやがった

お兄様……？



また
この男か？

巫姫殿下
こやつを処すれば
御身の名誉を
保つこともできます！

仮にも巫姫である
ファリンに
刃を向けるなんて
正気じゃない

もう奴は
勝った気で
いるんだろう

…ふざけないほうが
いいんじゃないかな

は？
よく聞こえませぬ

ふざけるなって
言っただよ！！

ボクには
愛する人がいる！
この人を愛してる！

どれだけ神々が
偉人だとしても

愛する人に
抱かれることが
機械なんて
言うのなら

このボク
九十九代巫姫^{サイヤス}
ファリン・メディウムが
神々を成敗する！


なっ…
なんという
暴言を！

もはや御身を
お救いする手立ては
なくなりましたぞ！

あっはっはー

知ったことじゃない！
ボクももう
あなたたち聖騎士をつ





でもまあ
私みたいないい女は
いい場面で登場する
ものなのよ

ル……
天姫！

シード
あんた弱いクセに
よくよく修羅場に
巻き込まれる男ね

くらくら天姫！

そなた一人で
おいしいところを
持つてくな!

ドッ

なーに言ってるのよ
あんたが狙撃できる
位置に着くまで
待っててあげたのよ

むむむ...

ままあ
許してやる!

それよりシード殿
また碌でもないことを
していたんだろう!

なんか女
増えてるし!

ラクスリアルも
久しぶり
相変わらず
おっぱいデカいな

いらんことを
言うな!
それよりさっきの
神業を褒める!

はいはい
すごかった
すごかった





ううん…
じゃなくて

はいわたくしが
九十九代巫姫
ファリン・メデイウム
です

別にかしこまった
話し方じゃなくて
いいわよ

あんた見てたら
なんとなく
わかってきたわ

キラッ

お仲間みたいね
いろんな意味で

ニヤッ



な
なんだと…

お供というのは
まさか…

というか
この髭の
おじさん何？

まあいいわ
教えてあげる
うちの兵隊を

そうね
ざっと、方ほど
連れてきたわ

い一万だと……!

二千はいつでも
ここに突撃できる
よう待機させて

仕方ないから
アリーシャ姫のほうに
八千ほど
送っておいたわ

こっちはあたしと
チヨロエルフだけで
充分だしね

チヨロエルフ
って言うな!

アリーシャ姫の
ところにはあたし
直属の部下たちも
いるからね

よその国で
勝手なこととして
悪いけど

アリーシャ姫との
合流を邪魔する
連中がいたら
揉み潰せと
命じておいたわ



なっ…!?
どこからそんな
大群が…我らの
包囲網をどうやって!?



じゃあもつと
わかりやすく
教えてあげる

ハハハ——



そっ
そもそも

なぜここに
天姫やエルフが
現れるのだ…

さっきと
同じこと言って
バカじゃないの?

シード・ネーキス
がいるからよ

私たちだって
忙しいんだけどな！
仕方なく
来てやったんだ！

そのハーフェルフ
「お前さんぞ！」

私の妹
コンカが
シード殿から変な目に
遭わされてないか
見に来ただけだ！

チヨロ天姫と
チヨロエルフは
ご主人様に抱かれたくて
我慢できなくなって
来ちゃった！

おぬ、

あら
いいじゃない
シードに抱かれに
来たって認めても

力のあるほうの
言うことが
正しいのよ

さて あたしは
巫姫様^{マギキ}に付くけど

それにあたしが
何をしようと
誰にも文句は
言わせないしね

その
おじさんは
まだやるの？

ぐうぐう……

な...ならば
我も武人として

死ぬわよ
あなた

世に名高い
天姫殿との
一騎打ちを
所望する！

これでも
聖騎士団の長に
命じられた者！

我が誇りに
かけて

せめて
ひと
太刀





たとえ敵であつても
死者には敬意と祈りを
捧げるか……

俺みたいな
不心得者にすら
神々しく見える

どうやら
俺の妹は本当に……

本当に立派に
成長したようだ

グレシアの中心
聖都

聖騎士団の蜂起から
1日が過ぎ

街は以前と
変わらない
にぎわいを
取り戻した

聖騎士団は
巫姫に降伏し
・部の将校が
拘束されたが

グレシアの正規軍で
ある以上簡単に
解体とはいかない

巫姫の愛する人の
正体については
今のところ公には
なっていない

騒ぎには
なっているようだが
巫姫の背後には
マスデインアがいる

だが軍の再編は
巫姫の意向が
強く反映された
人事になるだろう

口のうるさい
神官が騒いでも
武力の前には
意味を持たない



また入って
きました…んっ

あゝあゝ

はぁ
はぁ
あゝあゝ

うん

はぁ

うら…おっぱい
そんな激しくっ…
ああんっ！

おおい…
そろそろ私の
番じゃないのか

リーシャなんて
この前の戦いは
ちよつと軍を指揮した
程度じゃないか

うん

褒美を貰うなら
私が一番だろ！

なっ なんですか…
恩に着せるつもりは
ありませんけど

ラクシアルの姫兵たちも
わたくしが
守ったんですよ…はうっ

ん？

あんっ
もっと強く
突いて…！



極上の美女である
三人の魔衣姫の尻を
並べさせて
一人ずつ味見



この多幸感は何度経験しても飽きないっ



それぞれ一発ずつキメてからっ次は……



……は本当に
こういうこと
よくやらせますよね……

これでもわたしは
姫なんですよ

あら
あたしはいいわよ
リーシャは自分の胸に
自信がないだけ
じゃないの？



はは
二人とも私には
敵^{かな}わないんだから
敗者同士仲良く
やればどうだ！

んっんん…

うう
シード殿のが
私のおっぱいの
間で暴れてる…！

本当に元気よね
コレ あんっ

ビクンて
跳ねてる

けど…ちよっと納得
できないわね
あたしたちまだ
一回ずつなのに

残念ながら今回は
ルフィアに同意ですね
あっちよっと
あふれてきてる

んっ

こんな恥ずかしいことを
させるくせに
わたしたちは後回しに
されたんですからね…

ズハ

どろろ

どろろ

どろろ

ちゃっ
ちゃっ
ちゃっ

ちゃっ
ちゃっ
ちゃっ

ちゃっ
ちゃっ
ちゃっ



わたしが見てた限り
イリヤは中に四回
口で二回やられて
ましたよ

吸血鬼は
中は二回だけど
胸のほうは
五回も出されてた

よっぼど
あのおっぱいが
お気に入りみたいね
シード



まああ…
でも総計で言ったら
リーシャたちのほうが
多いだろ

それにまだまだ
リーシャたちとも
やるから

…っと出るぞ！



ふっ ああっ
白いドロドロが
いっぱいだ…！

わ私の胸が
気持ちよすぎ
たんだろう！

にやあん
あんなにいっぱい
出したのに
まだすごい量ね…！

こんなに
たくさん…
だ出しすぎですよ！

ああん
おっぱいに
熱いのが
かかってっ

…巫姫殿下に
異様に甘いのは
わたしの勘違いじや
ないですよ

見たところ
何度連戦しても
シード殿の興奮が
まったく
収まってないぞ

この天姫よりも
気持ちいいなんて
言うんじや
ないでしょうね

妹分ってそんなに
いいものなの？

…ご主人様は
もっとイリヤを
甘やかすべき

私の処女を
あれだけ何度も
奪っておいて…
納得できんぞ

おっ

姫とメイドと
吸血鬼たちに不満が
溜まりつつある…

解消するには
やるしかないな！

グイッ

モニッ

モニッ

何を考えているのか
だいたいわかるけど
ちゃんとボクを
抱いてほしいな

あああ

あーっ……

お兄様っ
お兄様と一つに
なれるのやっぱ
うれしい……

あーっ

お兄様
私の
いやらしい
ところ
もっともっと
かき回して……！

あーっ
いいよっ！
もう巫姫なんて
放りだして
ずっとこのまま
でいたい……！

俺もそうしたいけど
そんなわけにも
いかないだろ

御子に聞いたら
巫姫の政権は
安泰だって
話じゃないか

んっはあっ…

そうみたいだけど…
ところでその御子とは
何をしてたのかな？

ええーと

いいけど
お兄様だって
大変なことに
なってるんだから

…そうかなあ

南方地域の三国は
俺の手中にあるも
同然らしいけど…

あああっ
悩みながら奥まで
いっばい突いてるっ

お兄様は本当に
ボクの身体
好きすぎるよね

こんなにされたら
ボクもっとお兄様を
好きになっちゃう…！

まあ
国なんていらないけど
力が必要だったのは
今回でわかったし

…お兄様
本気で五十二人の
魔衣姫を全員攻略
するつもりじゃ
ないかな？



もちろん
でも

今はファリンを
全力で愛すよ


…うん お兄様
ボクは十年待ったん
だから まだまだ
愛され足りないよ



ああ
俺もまだまだ
ファリンを抱きたい

魔衣姫
五十二人
全員攻略は

南方三国と
グレシアの支援が
あればもう夢では
なくなった――



だけど
今はここに
いる
愛する女の子たちを
抱き続けよう

夜が明けて
朝が来て
また夜が来ても

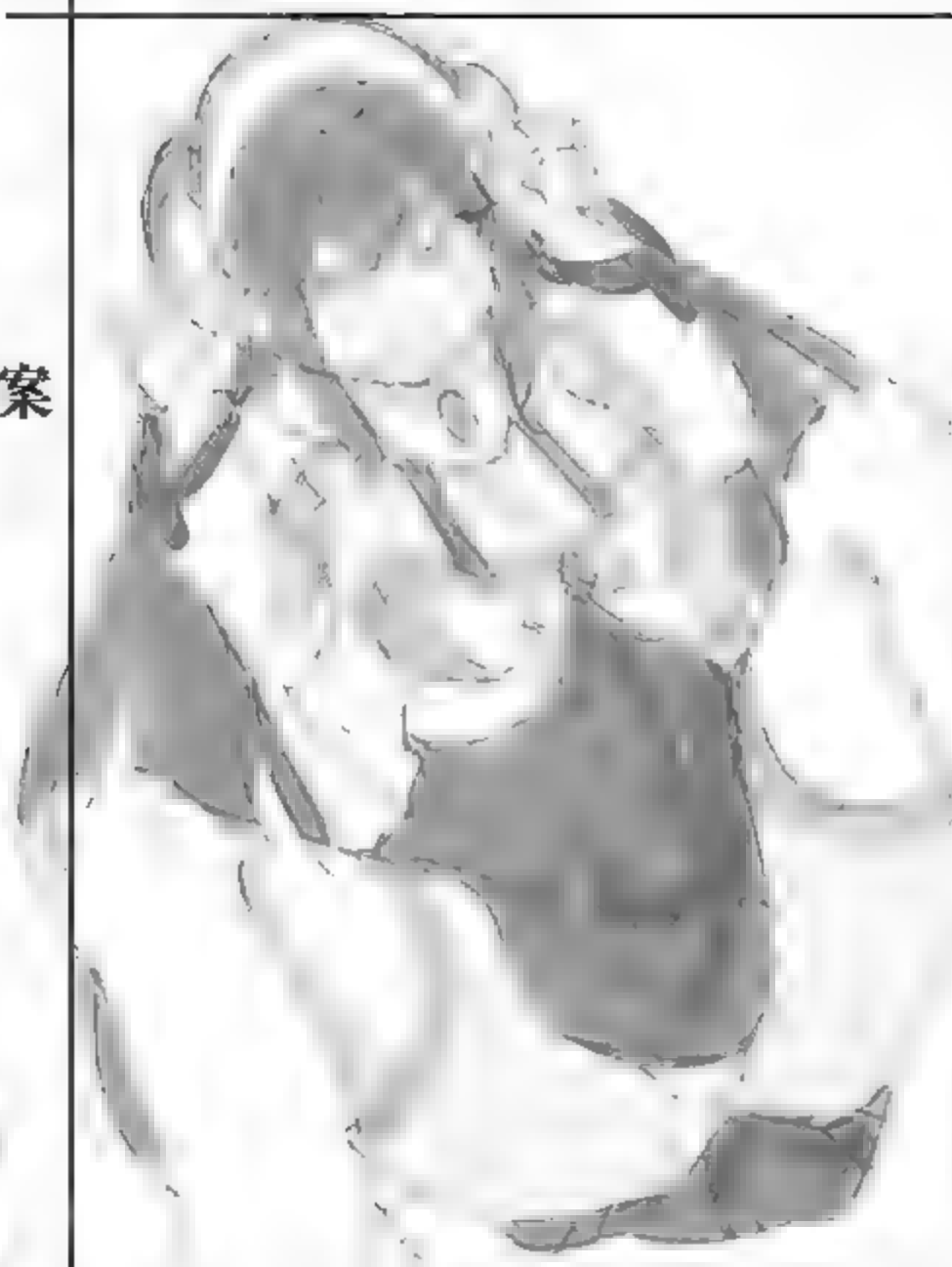
彼女たちを
愛し続けよう

END.

『セックス・ファンタジー』 コミックスカバーイラストラフ集

コミックス第5巻

採用案



別案①

別案②



MP
ICE
ファンタジー
5
m
KAWA

メ
ス
メ
メ

SEX FANTASY

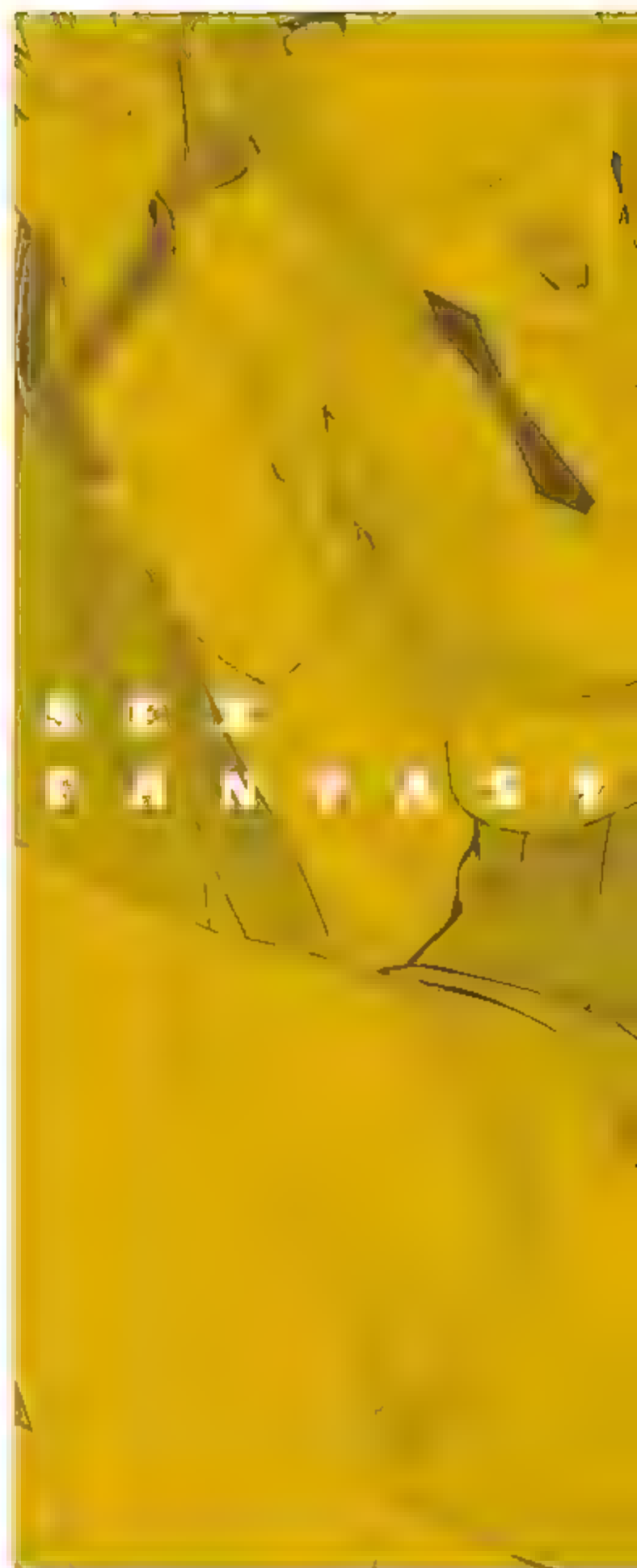


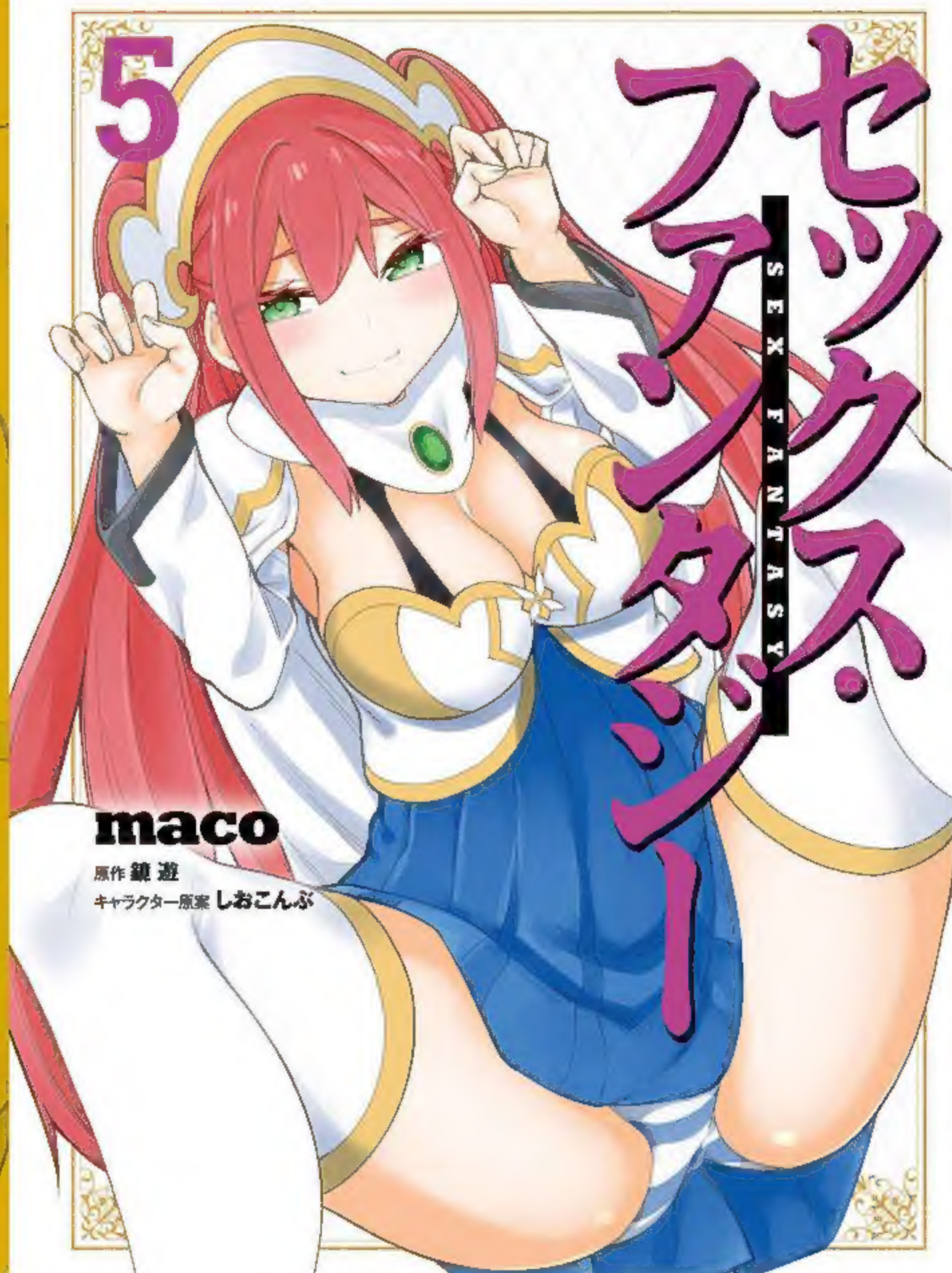
男子禁制のグレンシアの大神殿にて、
可愛い御子たちに愛を伝えていたシードは、
吸血鬼のシャーミイによって
地下牢に強制連行されてしまった。
シードは聖騎士たちの陰謀を聞かされつつも、
美しい吸血鬼を相手に夜御を楽しんでいたところ、
ついに巫姫が現れ、彼女が驚きの真実を語って!?

魔神を滅ぼした英雄の血を継ぐ青年シードと
魔神の力を宿す魔衣姫たちのハーレム戦記完結!



セックス ファンタジー







S E X
F A N T A S Y

5



S E X
F A N T A S Y

5



ヴァンプコミックス

セックス・ファンタジー 5

著者 maco

原作 ^{かがみ ゆう}鏡遊

キャラクター原案 しおこんぶ

2024年10月4日 発行
ver.001

©maco 2024

©Yu Kagami,Shiokonbu 2024

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
ヴァンプコミックス『セックス・ファンタジー 5』
2024年10月4日 初版発行

発行者 山下直久
発行 株式会社KADOKAWA
<https://www.kadokawa.co.jp/>
編集企画 アライブ編集部

●お問い合わせ

<https://www.kadokawa.co.jp/>（「お問い合わせ」へお進みください）

※内容によっては、お答えできない場合があります。

※サポートは日本国内のみとさせていただきます。

※Japanese text only

本電子書籍の全部または一部を無断で複製、転載、配信、送信すること、
あるいはウェブサイトへの転載等を禁止します。
また、本電子書籍の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
本電子書籍購入時にご承諾いただいた規約により、有償・無償にかかわらず
本電子書籍を第三者に譲渡することはできません。
本電子書籍の内容は、底本発行時の取材・執筆内容にもとづきます。
本電子書籍を示すサムネイルなどのイメージ画像は、再ダウンロード時に
予告なく変更される場合があります。
また、ご覧になるリーディングシステムにより、表示の差が認められることがあります。

この物語はフィクションであり、実在の人物・団体名とは関係がございません。

装幀・デザイン 稲子 靖[ERIDANUS]

初出 カドコミ2023年12月30日～2024年8月20日配信分